



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア・イラン：イラク首相指名への支持を表明

8月11日、イラクでアバーディー国会第一副議長が首相に指名されたことに対し、サウジアラビアとイランはそれぞれ支持を表明した。[「イラク：首班指名をめぐる情勢」『中東かわら版』No. 110 \(2014年8月12日\)](#)を参照

12日、サウジアラビアのアブドゥッラー国王は、アバーディー氏に対する祝電を発出。首相指名への祝意を表明するとともに、「イラク国民の間の結束を再確立し、イラクの統一性と安定を保つ」こと、また、イラクが「アラブ・イスラーム世界での正しい位置を取り戻す」ことを望むとした。

また、イランでは、12日にシャムハーニー国家安全保障最高評議会書記が、各国の駐イラン大使が集まる年次会合の場において、首相指名に至る法手続きへの支持を表明した。また、シャムハーニー書記は、全てのイラク勢力に対し、外国の脅威に対抗するため、国家統一と法の支配の原則を順守するよう要求した。

評価

サウジアラビアとイランはこれまで、マーリキー首相の去就、挙国一致内閣の成立など、イラクの政治情勢を巡って異なる立場にあった。[「サウジアラビア：イラクに挙国一致内閣の樹立を呼びかける」『中東かわら版』No. 60 \(2014年6月17日\)](#)を参照。イラン側は政府による正式発表ではないものの、シャムハーニー書記の見解はイラン政府を代表するものと見なしてよいだろう。サウジアラビアはシリアでの戦闘に参加した自国民に有期刑を下すなど、イランが求めてきたテロへの対処を強化しており、一時期悪化したサウジアラビアとイランの関係は、ここにきて再度改善の兆しを見せている。

他方、8月8日以降、米軍によるイラク空爆が継続している。これまでイランは、イスラーム国がイラクで勢力を拡大することに危機感を抱きつつも、米軍の介入には否定的な立場であった。[「イラン：イラク政府への支援を表明・米国の軍事介入には反対」『中東かわら版』No. 59 \(2014年6月16日\)](#)を参照。しかしながら、現在のところ、米軍の空爆に対するイラン政府高官の反応としては、10日にラーリージャーニー国会議長から、「こうした動きによってイスラーム世界で起きてきた（米国による）犯罪を隠すことはできない」と、支持とも不支持ともとれない発言があるだけである。イラクを巡る湾岸地域情勢の見通しは、引き続き不透明なままである。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799